

新居浜工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	時事英語
科目基礎情報						
科目番号	101790		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	環境材料工学科		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	Meet the World - English through Newspapers 2022 若保有彦編著 (成美堂) Duo 3.0 (アイ・シー・ピー)					
担当教員	塚本 亜美					
到達目標						
1 英字新聞の記事を速く正しく読むことができ、内容を理解することができる。 2 英字新聞でよく使われるフレーズや語彙を習得する。 3 社会で起きている諸問題に関心を持つ。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	速く正しく読むことができ、内容を理解することができる		概ね正しく読み、内容を概ね理解することができる		正しく読むことも、理解することもできない	
評価項目2	十分習得している		概ね習得している		習得が不十分である	
評価項目3	大に関心を持ち、自身の生き方の参考にできる		これまで気づいていなかった諸問題に気づき、関心を持つ		関心がほとんど、あるいは、まったく持てない	
学科の到達目標項目との関係						
コミュニケーション能力 (E)						
教育方法等						
概要	英字新聞から抜粋した世界情勢を扱った記事を読みながら、英文を速く正しく理解する力を養う。また、同時に、現在世界で起きている諸問題に対する関心を喚起し、視野を広げることによって、まもなく社会人となる学生の人としての度量を深めることを目指す。					
授業の進め方・方法	学生から積極的な発言を求めながら、解説を加えていく。予習してきた内容を授業で確認する。語彙力高めるために Duo.3.0を用いて勉強する。					
注意点	必ず授業の準備をして授業に臨むこと(わからない単語の意味を調べる。本文を読んで大筋を理解する)。授業には英和辞書を持参すること。Duo 3.0を使用した学習を習慣づけ、語彙力の強化に努めること。 関連科目：英語 1、英語 2 A、英語 2 B、国際理解					
本科目の区分						
Webシラバスと本校履修要覧の科目区分では表記が異なるので注意すること。 本科目は履修要覧の「④選択科目」である。						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Introduction, Unit 1 Self-made South Korean billionaires promise to give half way		1,2,3	
		2週	Unit 1 Self-made South Korean billionaires promise to give half way		1,2,3	
		3週	Unit 2 Treaty to eliminate nukes takes effect		1,2,3	
		4週	Unit 2 Treaty to eliminate nukes takes effect		1,2,3	
		5週	Unit 3 Lockdown-weary Malaysians get appetite for drive-in dining		1,2,3	
		6週	Unit 3 Lockdown-weary Malaysians get appetite for drive-in dining		1,2,3	
		7週	中間試験			
		8週	Unit 4 France to extend lifetime of old nuclear power plants		1,2,3	
	2ndQ	9週	Unit 4 France to extend lifetime of old nuclear power plants		1,2,3	
		10週	Unit 5 Captain: Passengers' letters supported crew		1,2,3	
		11週	Unit 5 Captain: Passengers' letters supported crew		1,2,3	
		12週	Unit 6 Black kings, but no politics - Murphy returns in Coming 2 America		1,2,3	
		13週	Unit 6 Black kings, but no politics - Murphy returns in Coming 2 America		1,2,3	
		14週	Unit 7 Learning as avatars may become new norm		1,2,3	
		15週	期末試験			
		16週				
後期	3rdQ	1週	Unit 7 Learning as avatars may become new norm		1,2,3	
		2週	Unit 8 Online safaris, tours keep everyone safe		1,2,3	
		3週	Unit 8 Online safaris, tours keep everyone safe		1,2,3	

		4週	Unit 9 Nippon Steel aims to achieve decarbonization by 2050	1,2,3
		5週	Unit 9 Nippon Steel aims to achieve decarbonization by 2050	1,2,3
		6週	Unit 10 Harvard astronomer argues that alien vessel paid us a visit	1,2,3
		7週	中間試験	
		8週	Unit 10 Harvard astronomer argues that alien vessel paid us a visit	1,2,3
	4thQ	9週	Unit 11 Remnants of 'railway on the shore'	1,2,3
		10週	Unit 11 Remnants of 'railway on the shore'	1,2,3
		11週	Unit 12 AI to predict crowding at evacuation centers	1,2,3
		12週	Unit 12 AI to predict crowding at evacuation centers	1,2,3
		13週	Unit 13 U.S. seeks participation of Japan, 'Five Eyes' in 5G teams versus China	1,2,3
		14週	Unit 13 U.S. seeks participation of Japan, 'Five Eyes' in 5G teams versus China	1,2,3
		15週	期末試験	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後16
			英語運用能力の基礎固め	説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	前14
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	

				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	
評価割合						
			試験	発表・提出物・課題・小テスト	合計	
総合評価割合			70	30	100	
基礎的能力			70	30	100	